女子ダブルスにおける戦術研究

A Study on the Strategy of Women's Doubles

1J01C261-1 氏名 山中麻央

指導教員 主査 加藤清忠先生 副査 坂井利郎先生

1. はじめに

テニスには、シングルスとダブルス、という2つのゲームがある。

シングルスは、1対1のゲームであり、ダブルスは、2対2で各々のプレーヤーが、多様なプレーでポイントを取り合う。

ダブルスのプレースタイルには大きく分けて3つあげられる。

一つ目に、一人がネットプレー、もう一人がベースラインプレーをする雁行陣。二つ目に、2人がネットプレーをする平行陣。もう一つは、2人がベースラインプレーをするベースラインプレーでの平行陣である。

男子ダブルスにおいては、ネットプレーでの平行陣が主流であるのに対して、女子ダブルスでは、雁行陣でのプレーが多く見られる。ダブルスではネットプレーが有効であるといわれる一方、女子選手は、ネットプレーを苦手とする選手が多いように感じる。

そこで本研究では、女子ダブルスにおける戦術に着目し、ネットプレーの有効性があるといえるのかを明らかにする女子ダブルスの戦術の一端を明確にしていくことが目的である。

2. 研究方法

ウィンブルドンテニス女子ダブルスを分析対象とし、ゲームを再生しながら観察・分析した。

(1) 1セットでペアごとに取得したポイント数に対するネットプレー、ベースラインプレー、その他のプレーの取得ポイント率の割合

(2) 1セット全体のポイント数に対するネットプレー、ベースラインプレー、その他のプレーの取得ポイント率の割合

(3) ペアごとのネットプレー、ベースラインプレーの決定率

(4) プレースタイルの頻度数を分析項目とした。

3. 結果と考察

ペアごとの各プレーの取得ポイント率をドーナツ型の円グラフにし、データラベルの値は、整数がプレー数を表

し、パーセンテージは、各ペアが取得した全体のポイント数に対するその値のパーセンテージを表した。

Winner ペアはネットプレー取得率が高く、loser ペアにおいては、ベースラインプレー取得率の方が高いことが明らかになり、ネットプレー取得率が優位であることが考えられる。

次に総ポイント数に対する各プレーの取得ポイント率を円グラフにしたところ、ベースラインプレー取得率では両ペア間にあまり差がみられないのに対し、ネットプレー取得率では差がみられ、このことからネットプレー取得率が優位であると考えられる。

次にペアごとのネットプレーとベースラインプレーの決定率を積み上げ縦棒グラフにした。

決定率は各プレーとも winner ペアの方が高いことが明らかになりベースラインプレーでのプレー数が、loser ペアの方が多かった。このことから、プレー数の多さではなく、プレーの決定率がゲームの勝敗を左右すると考えられる。

最後にプレースタイルとして、ネットプレーでの平行陣、雁行陣、ベースラインプレーでの平行陣の頻度数を、ペアごとに縦棒グラフにした。グラフから、ネットプレー率の方が全体的に高いことから、雁行陣においても、ネットプレーがゲーム内で優位に働いてると考えられる。

4. 総括

以上のことをまとめた結果、女子ダブルスにおいて、ネットプレー、ベースラインプレーのどちらが、優位さを持つのかについて、ネットプレーが優位であることが明らかになり、一般的に言われているネットプレーの有効性について、女子ダブルスにおいても有効であることが分かった。また、プレー決定率の高さが勝敗において優位であり、プレースタイルにおいては、雁行陣が主流であるということが明らかになった。

これらのことより、女子ダブルスの戦術については、雁行陣からのネットプレーが有効であり、また、そのプレーの正確さが試合の勝敗に関して、最も優位であることが本研究において明らかになった。